459 ^{99m}Tc-pyrophosphate (PYP)シンチグラフィによる心アミロイドーシスの診断：アミロイド蛋白による差異について

竹崎雅之、木村和文、小塚隆弘（大阪大学医学部バイオ研）、石田良雄、谷　明博、両角隆一（同第一内科）、朴　永大（大阪厚生年金病院）

著明な心筋肥厚が認められたアミロイドーシス５例に、^{99m}Tc-PYPおよび^{201}Tl心筋シンチグラフィ（SPECT）を施行した。^{99m}Tc-PYPの心筋集積は、家族性の２例で陽性であったが、二次性（AA型アミロイド蛋白）の３例で陰性であった。^{201}Tl像では、家族性の１例で、^{99m}Tc-PYPの高度集積部に一致した部位に欠損像を認めた。以上より、^{99m}Tc-PYP集積はアミロイド蛋白の種類によって異なることが示唆された。また、^{201}Tl像では、局所的に高度な沈着がある場合にのみ、欠損像として検出されると考えられた。

460 ACバイパス術後心筋障害のTℓ診断の限界－PYP陽性例における検討－

矢田隆志，西村重敬，加藤健一，小宮山伸之，関　顕（虎の門病院循環器センター内科）小西敏雄，布施勝生（同外科）村田　啓（同放射線科）

^{99m}Tc ピロリン酸心筋シンチ（PYP）にて確認されたACバイパス術後心筋障害９例に対し，術前，術後に施した^{201}Tℓ心筋SPECT像（Tℓ）を比較検討した。PYP陽性９例中，Tℓ検出例は４例であり，Tℓ検出部位はPYP陽性部位と一致した。部位別の検討では，PYP陽性部位が側壁の３例ではTℓ非検出であった。Tℓ検出例とCK値（Tℓ検出例：2052 IU/ℓ，非検出例：2041 IU/ℓ）とは関連がなかった。心電図上，術後新たなQ波出現は，Tℓ検出４例中２例，Tℓ非検出５例中２例であった。術後早期の心筋障害検出においては，TℓはPYPに比してその診断能力が劣ると考えられた。

461 川崎病の心筋虚血性病変における心筋シンチグラフィーの各種表示法の検討

渡部誠一，清水純一，石原啓志（土浦協同病院小児科）
保崎純郎（東京医科歯科大学小児科）
廣江道昭（東京女子医科大学放射線科核医学部）

川崎病既往児19名にジピリダモール負荷 ^{201}Tl心筋シンチグラフィーを施行しSPECTの再構成像，Bull's eye，Wash out，Extent mapの４表示法を作製して比較検討した。同時期に冠動脈造影を施行し，セグメント狭窄，75%以上の局所性狭窄，巨大冠動脈瘤＋局所性狭窄を有意狭窄病変とした。再構成像，Bull's eye，Wash out，Extent mapの４表示法におけるsensitivityは各々80% 90% 50% 60%，specificityは89% 93% 93% 100%，accuracyは87% 95% 82% 89%であった。Bull's eye，Wash out，Extent mapの併用により診断精度を高め得ると思われた。

462 川崎病（MCLS）における心病変の心筋血流および心機能評価

蜂矢由美子，河村康明，山崎純一，奥仲一雄，武藤敏徳，中野　元，若倉　学，岡本　淳，細井宏益，森下　健（東邦大学第一内科）　松浦裕行，佐地　勉，松尾準雄（東邦大学第一小児科）

川崎病は本邦での発生頻度は高く，冠状動脈瘤，急性心筋梗塞などの合併心病変は，その重症度や予後に重篤な影響を及ぼす。しかしながらその発症原因は不明のままである。我々は，当院受診川崎病患者３５名に対して^{201}Tl心筋シンチグラム及び^{99m}Tc心シンチグラムを施行し，心筋血流及び心機能の評価を行った。同時に一部の症例では経時的な観察を行うと共に，運動負荷心筋シンチを施行し，運動耐容能を検討し，心筋血流を超音波検査，冠状動脈撮影と比較することにより興味ある知見を得た。

463 Tl-201心筋イメージングにおける右房描出 三尖弁閉鎖例における検討

小野安生、木幡　達、神谷哲郎（国立循環器病センター小児科）　西村恒彦、高宮　誠（同放射線科）
八木原俊克（同心臓血管外科）

三尖弁閉鎖(TA)24例のべ30例においてTl-201心筋イメージング(TMI)を施行し、右房描出の有無について検討した。内訳は術前7例、BT術後9例、Fontan術後10、Glenn手術後3例である。右房描出の有無は、Pla ner像により視覚的に判定した。それぞれの群の右房描出は術前2例(29%)、BT術後7例(78%)、Fontan術後3例(30%)にみられた。Glenn術後例3例では右房描出は認められなかった。心臓カテーテル検査所見との比較では、右房圧とTMI上の右房描出とは関係を認めなかったが、BT術後例では左室容量負荷例で有意に右房描出を認めた(P<.05)。またGlenn手術は右房負荷軽減に有利であった。

464 安静時TLシンチグラムにおける肺／左室カウント比（L／H比）と右心系内圧との比較検討

本多教章，阿部正宏，白石裕盛，犬塚　博，邱　文章，落合恒明，麦倉素行，阿部敏弘，伊吹山　千晴
（東京医大霞ヶ浦病院循環器科）

安静時TL心筋シンチグラムより得たL／H比を右心系内圧と比較し，L／H比が心内圧を推定するパラメーターとなりうるかを検討した．

心疾患30例の右心系内圧をSwan－Ganzカテーテルにて測定後，TLをRAより注入し20分後よりプラナー法にて撮像した．得られた像の左肺野と左室にROIを設定しカウントを算出後各内圧と比較検討した．

L／H比はPCW圧と$r=0.822$，PA収縮期圧と$r=0.792$（$p \leq 0.01$）で有意の正相関を示した．

L／H比は右心系内圧の推定に有用であると考えられた．

Presented by Medical*Online